

三十四年九月廿一日印

●目次

◎本會記事

◎開會ノ事

◎第一回給集會ノ事并演說祝文

◎會員贊助員氏名

◎演說

◎日本ニ於テ地理ト人類ノ關係一斑

松原榮君演說

◎本校記事

◎沿革ノ概要

◎卒業生氏名

◎現況一斑

◎運動會修學旅行等

◎徳川侯爵ノ揮毫

◎廣告

秋山縣尋常中學校同窓會報告 第一號

和歌山縣尋常中學校同窓會規約

- 第一條 本會ヲ名テ和歌山縣尋常中學校同窓會ト稱ス
- 第二條 本會々員ハ現ニ和歌山縣尋常中學校ニ在學シ又
曾テ同校ニ在學シタル者ヲ以テ組成ス
- 第三條 本會ハ會員相互ノ德義ヲ磨勵シ知見ヲ更換シ交
誼ヲ永遠ニ保持スルヲ以テ目的トス
- 第四條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
會長 壹人
會務ヲ總理ス
幹事 四人
會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ掌理ス
- 第五條 本會々長ハ和歌山縣尋常中學校長ニ囑托スヘキ
モノトス
- 第六條 本會幹事ハ會員中ヨリ選舉シ其任期ヲ二ケ年ト
ス但滿期再選スルコトヲ得
- 第七條 本會ハ和歌山縣尋常中學校職員及其他學識德望
アリ士ニシテ本會ヲ贊助セラル、人ヲ以テ贊助員トス
但必要ノ場合ニ於テハ贊助員中ニ就キ三名以下ノ協議
員ヲ囑托スルコトヲ得
- 第八條 本會ハ毎年一回夏季休業ノ初ニ於テ總集會ヲ開
キ左ノ事ヲ履行ス
一 會務ノ報告
一 會員贊助員ノ演說談話
一 他縣同窓會ノ學識及德義ニ對スル報告

第九條 本會ハ毎月一回常集會ヲ開キ會員贊助員ハ二家
説談話ヲナシ又ハ學識經驗アル士ヲ聘シテ講談ヲ囑
スルコトアルヘシ

- 第十條 在郷會員ニシテ總集會ニ出席セサル者ハ豫メ
其旨ヲ本會幹事ニ通報シ兼テ第八條第三項ノ報道ヲナ
スヘキ材料ヲ供スヘキモノトス
 - 第十一條 本會ハ毎年二回以上報告書ヲ作り第八條第九
條ノ報告演說其他和歌山縣尋常中學校ニ於ル重大ノ事
件等ニシテ會員ノ參考トナスニ足ルヘキモノヲ撰ビ之
ヲ掲載シテ會員贊助員ニ配付スヘシ
 - 第十二條 本會々員ハ會費トシテ毎月一錢以上
スヘキモノトス但一時金壹圓以上ヲ出金スルモノハ補
後會費ヲ出スニ及ハス
 - 第十三條 本會ノ規約ヲ變更シ又ハ決議ヲ要スルコトア
ルハ會員中ヨリ二十名以内ノ評議員ヲ撰出シ其議事
ヲ委託スヘキモノトス
- 明治二十四年七月改定
- 和歌山縣尋常中學校同窓會
- 編輯人 和歌山縣和歌山市雜賀屋町二十二番地 大橋 季一
發行兼印刷人 和歌山縣和歌山市雜賀屋町東ノ丁九番地 兒玉 蒼太郎
發行所 和歌山縣尋常中學校同窓會

和歌山縣尋常中學校同窓會報告

和歌山縣尋常中學校同窓會報告

昨午十一月ヨリ本年六月マデノ内常集會ヲ開シ
テ毎回演說演說等アリ其題目氏名ハ左ノ如シ

第一回 明治二十三年十一月十五日開會
演說者 松山 亮
大龍 七郎
大橋 季一
野口徳太郎
鈴木 篤三
山名光太郎
兒玉蒼太郎
布施 萬

第二回 明治二十三年十二月二十日開會
演說者 加藤 陽三

第三回 明治二十四年一月十二日開會
失題 萩野 梅若
石戸 友吉
杉村廣太郎
宮本良太郎

第四回 明治二十四年二月廿一日開會
自治ノ必要 楠本千代吉
松原 榮
杉村廣太郎

第五回 明治二十四年四月廿五日開會
松原先生ノ説ニ感アリ 加藤 陽三
會員ニ望ム 石本 徳松
親の心(一) 馬淵近之丞



明治二十四年六月廿七日開會

青年諸氏ニ音樂ヲ學ハレシコトヲ勸ム

松原 榮

昔歐洲ニ起リテ戰爭

岡見 昇三

閣龍傳略(一)

松山 亮

親の心(二)

馬淵近之丞

○第一回 總集會ノ事

本會ハ明治二十四年七月十九日和歌山縣尋常中學校講堂
第一回總集會ヲ開キタリ其景況概略左ノ如シ

午前八時會員贊助員一同着席會長松山亮君起テ本會從來
ノ經歷其目的等ニ就テ一場ノ演說ヲナシ次ニ左ノ如ク

會員ニ協議セラレタリ

一本會ノ規則ニヨレハ本會ノ費用ハ渾テ會員贊助員中有

志者ノ寄付ヲ以テ支辨スベキ等ナレモ寄付ノミニテハ

資金不充分ニシテ會員諸君ニ必要ナル通信報告等ヲナ

スニモ差支アリ依テ今後ハ會員タルモノハ少クモ毎月

一圓以上ノ山スルコトヲ以テ一年ニ一回許

報告書ヲ印刷シテ之ヲ會員贊助員ニ配付スルコトヲセ

ン左スレハ在校者ハ校外會員ノ消息ヲ知ルコトヲ得校

外會員ハ校内ノ概略ヲ知ルコトヲ得テ互ニ便益ヲ得ル

コトナラン

二前項ノ如クスルルハ會員ノ中月々會費ヲ出金スルノ煩

ヲ避ケ一時ニ出金セント企望スルモノアルベシ其企望

者ハ一時金一圓以上ヲ出スルハ爾後月費ヲ出スニ及ハ

ザルコトヲセ

三本會役員ハ會長ノ外皆正會員ヨリ撰擧スヘキ規定ナレ

ル創業ノ際種々協議ヲ要スルコトモアルベシハ猶必

要アリト認ムルルハ贊助員中ニ就キ三名以内ノ協議員

ヲ囑托スルコトヲ得ルコトヲセ

右議決ノ上ハ規則面ニハ相當ノ修正ヲ加フヘシ

右三項ノ協議ハ逐次其可否ヲ問ヒシニ何レモ大多數ヲ以

テ本案ノ如ク可決セリ(改正規則ハ表紙内面ニアリ)

次ニ會員ノ投票ヲ以テ幹事ヲ撰擧シタルニ其結果左ノ如

シ(○印四名當選)

七十票 ○石戸 友吉 五十六票 ○兒玉芥太郎

五十三票 ○楠本千代吉 四十一票 ○大橋 季一

四十票 功刀通之助 三十六票 廣田 一乘

二十四票 山名光三郎 二十二票 岡見 昇三

十八票 加藤 陽三 十七票 木梨延太郎

十六票 戸村 定楠 十四票 猪谷善之助

十四票 平山雅二郎 十二票 荻野 梅若

投票終リテ暫時休憩再ヒ着席ノ上贊助員松原榮君ハ地形

ト人事ノ關係ニ就テ會員菅谷榮橋君ハ生理學ニ就テ各一

場ノ演說アリ又會員廣田一乘中谷民太郎蘭部俊ノ三君ハ

修學ノ事ニ關シテ在校會員ニ告ル所アリ會員杉村廣太郎

君ハ自作ノ文章ヲ朗讀シ贊助員布施萬穂積信順ノ二君ハ

祝文ヲ朗讀シ同馬淵近之丞君ハ簡單ナル談話ヲナシタリ

右終リテ贊助員諸君ヨリ會員一同へ茶菓ヲ饗シ一同散會

シタルハ正午過ぎナリ此日參會者ノ數參百餘名ノ内外外

會員ニシテ參會セラレタル諸君ハ左ノ如シ

廣田 一乘 中谷民太郎 菅谷 榮橋 戸村 定楠

同窓會報告第一號

本會記事

三

寺島 宣躬 後藤 勇 平田 敏雄 赤城 一

蘭部 俊 大橋 季一 土岐 嘉平 岩本竹之助

服部 本一 荻野 梅若 吉田 甚藏 木梨延太郎

橋本 常彦 田村富太郎 小山 光彦 岩濤永太郎

兒玉芥太郎 杉村廣太郎 勝田良太郎 山名光太郎

平野貞一郎

當日松山會長ノ演說大意布施萬穂積信順君ノ祝文ハ左ノ

如シ

○演說大意

群居和合ハ人生ノ尤モ快樂トナス所況ヤ數年ノ間雪ノ

辛苦ヲ共ニサレタル諸君ガ一旦別離シタル後ニ於テ斯ク

一堂ノ内ニ會合シ舊ヲ話シ新ヲ談シテ互ニ其身體ノ健康

ヲ祝シ學業ノ進歩ヲ賀スルノ快味ニ至リテハ固ヨリ言語

ノ能ク名狀スル所ニアラス語曰、有朋自遠方來、不亦樂乎

ト其ノ此ヲ謂フ歟茲ニ本會第一回ノ總集會ヲ開クニ當リ

斯ノ如ク盛ニ諸君ノ會同ヲ得此愉快ヲ共ニスルコトヲ得

ルハ余ノ諸君ニ對シテ深ク感謝スル所ナリ却說本會結合

目的ト從來ノ經歷ニ就テハ諸君ハ大抵了知セラル、ナ
ラント雖モ諸君ノ内ニハ今日始メテ本會ニ列セラル、方
モアルコトナレハ一ト通り之ヲ申述ヘ併シテ聊カ余ノ企
望ヲ一言セントス

本會ノ成立ニハ二種ノ原素アリ一ハ明治廿一年ノ卒業生
諸君ガ在校中ノ交誼ヲ保持シ兼テ互相ノ間ニ德義ヲ勵ミ
知識ヲ研クヘキ一助ニセントノ目的ヲ以テ同窓會ヲ組織
セシコトヲ企テラレタル事ニシテ一ハ本校職員ノ發起ヲ
以テ月々校内ニ講談會ヲ開キ正課ノ外間接ニ在校諸君ヲ
シテ道德學藝ニ關スル裨益ヲ得セシメ兼テ職員ト生徒ノ
間ニ親睦ヲ加フベキノ方便トナシタル事はナリ然ルニ卒
業生諸君ノ計畫ニ係ル同窓會ハ猶人員モ僅少ナレハ確乎
ナル基礎モ立テ難ク又職員ノ發起ニ係ル講談會ハ卒業生
トノ間ニ聯絡ヲ得ス彼此共ニ不充分ノ感アリシニヨリ昨
年六月頃余ハ右兩會ヲ合併シテ廣ク過去現在ニ涉リテ
本校ノ學生ヲ總括シテ一ノ同窓會トナサントノ鄙見ヲ以
テ諸君ニ詢リタル所追々諸君ノ贊成ヲ得殊ニ昨冬ニ至リ

シテ想フニ今日茲ニ會同セラレタル諸君ノ内ニハ進テ多
年ノ苦學其効ヲ奏シ博士學士ノ稱號ヲ受クル人モアラシ
生産社會ニ入りテ其機軸ヲ運轉シ公私ノ利益ヲ圖ル人モ
アラシ公務ニ身ヲ委シテ國利民福ヲ増進スル人モアラシ
此等名士ノ令聞德望ヲ以テ本會ノ名簿ニ光輝ヲ添フルノ
期蓋十數年ノ内ニ在ルベシ豈亦愉快ナラズヤ果シテ其時
ニ至ルマテ本會ヲ保維スルコトヲ得ハ諸君ハ或ハ學識德
望ヲ以テ或ハ獎學資金ノ方法ヲ以テ後進者ヲ誘掖スルノ
勳ヲ奏セラル、一亦少ナラサルベシ是レ決シテ期スベ
カラサルノ企望ニアラス此企望ニシテ期スベキモノトナ
スト期スヘカヲザルモノトナストハ諸君ノ心情如何ニ由
リテ決ス嗚呼此青年書生ノ一團ヲ以テ他日海南ニ於ル人
物ノ淵數トナスカ一場ノ兒戲ニ付シ去ル歟ハ諸君ノ精神
如何ニヨリ定マル諸君其レ之ヲ諒セヨ

○祝文

同窓ニ榮雪ノ若キ當メ一卓ニ肉菜ノ羹ヲ啜リ數年間相研
磨シ相敬愛メテ所謂青雲ノ交ヲ爲ス親子兄弟一家ニ團聚

大橋季一、野口徳太郎、兒玉若太郎等諸君ノ斡旋盡力ニ
リ全ク本會ノ團結ヲ見ルニ至リ而シテ其結合ノ目的ハ
第一當校ニ於ル過去現在ノ學生互相ノ間及學生ト職員ノ
間ニ永ク親睦ナル交誼ヲ保持シ猶未來ノ學生及未來ノ職
員トノ間ニモ成ルベク此旨趣ヲ貫徹シテ一方ニ於テハ會
員各自ノ道德智識ニ資益シ一方ニ於テハ後進ノ爲メニ善
良ナル學生ノ模範トナリ以テ教化ノ一端ヲ翼賛センコト
ヲ期スルニ在リ

本會ノ經歷ト其目的ニ就テ余ノ申述ントスル所大略右ノ
如シ此ヨリ余ノ企望ヲ一言セン余ノ企望トテ別ニ前陳目
的ノ外ニ之アルニアラス唯諸君ガ前陳ノ目的ヲ了認シテ
其實効ヲ見ルニ至ラシコトヲ望ムノミナリ此企望ハ本會
今日ノ景狀ニ於テハ容易ニ達シ得ベシトモ思ハレサレモ
諸君ガ誠意以テ各自ノ智徳ヲ磨勵シ永ク親睦ノ交誼ヲ失
ハザルニ於テハ早晚之ヲ達フルノ機アルベシ今ヤ本會ハ
纔カニ萌芽ヲ發生シタルニ過キスト雖モ諸君ト共ニ同心
戮力之ヲ培育セバ他日凌雲ノ勢ヲ見ル亦難キニアラサル

シテ嚮然タル和氣ノ中ニ娛ム外別ニ一種ノ情味ヲ存スル
モノ惟學友ヲ然リトス然レモ人世ハ白雲潮汐ノ如ク聚散
進退常アル無シ百口同譽之ヲ古ヘニ聞ケリ之ヲ今日ニ觀
ル能ハス況ンヤ學生ノ學籍ニ在リテ業ヲ卒ルハ其日月ノ
長カラサルヲ榮トスルヲヤサレハ數年間同窓ニ相敬愛ス
ル所ノモノ業成レハ直チニ袂ヲ分カテ或ハ笈ヲ負ヒテ遠
ク他郷ニ赴キ或ハ實業ヲ執リテ專ラ經驗ヲ務メントシ希
望ハ其人ヲシテ小成ニ安ンセシメヌ是ヲ以テ一旦參ト昂
ト東西ニ離散スルヤ其情日ニ冷カニ其愛年ニ疎ク外ニ居
ル者ハ内ニ念ハス内ニ在ル者ハ外ニ忘ル、トニハアラサ
レモ各自ノ業務ハ舊來ノ情交ヲ阻隔シテ之ヲ温ムル機會
ヲ得ス一般學生ヲシテ毎ニ搔痒ノ歎アラシム之ヲ醫スル
ノ道豈其方ナカラシヤ今ヤ世ハ開ケニ開ケテ千里隔壁ノ
ミ縱令天涯萬里ノ外ニ隔絶シタルモ電線ノ通スル所汽船
ノ達スル所親友互相ノ情況ヲ知り相愛シ相吊シ且智識ヲ
交換スル亦易々タルノミ

我カ和歌山縣尋常中學校出身ノ諸君此ニ見ルアリ前ニ既

是乎本會愈活動之新ニ一生面ヲ開カン爰ニ本日其第一
 回總會ヲ開カシ其基礎ヲ固メテ將ニ不日ニ其誌發刊ノ
 美舉ヲ見シトス嗚呼今ヨリ后ハ奮盟ヲ温メ得テ親友互相
 ノ愛情ヲ増進シ行爲ヲ制理シ數多ノ鴻益ヲ受ケンヲ期シ
 テ待クベシ是會長松山君ノ變理ノ宜キニ由ルト雖モ亦本
 校出身ノ諸君ト在校諸君ノ力ナリ萬多年滿堂諸君ト斯文
 ノ研究ヲ議論ヲ上下ス此ノ美舉アラントスルヲ聞キ雀躍
 林舞措シ能ハス敢テ高坐ヲ汚シ聊カ祝意ヲ表スル所以ナ
 夫哀極マレハ樂ヲ念ヒ歎極マレハ憂ヲ懷フ抑人ノ情也萬
 今日無限ノ快樂ヲ得テ反リテ本會ノ前途ヲ望メハ又一事
 ノ默止スヘカヲサルモノアリ請フ試ニ之ニ陳ヘン惟フニ
 本會ノ結合ハ畢竟社交的ノ團體ニ屬ス故ニ各自ノ感情一
 且冷カヤラソニハ解体センコトモ亦速カナルベシ凡ソ世ニ
 本事業ヲ創始スルトキハ其主義ノ如何ヲ問ハス其規模ノ
 大小ヲ論セシ必ズ幾多ノ困難ヲ經過セサルヲ得サルハ運

命ノ免カレ能ハサル所也苟モ一事ヲ企テ一業ヲ起サノ者
 ハ豫メ其覺悟ヲカルヘカラス今夫天朝カニ氣清ミタリ吾
 人青岸ニ立チテ海面ヲ眺望スレハ淡路ノ嶋近ク目睫ニ在
 リニ名ノ島遠ク香鬪ノ中ニ隱見シ穩波千里汪洋トシテ一
 美觀ヲナスナリ須臾ニシテ風雲起リ其力ヲ逞クスルニ當
 リテハ在瀾怒濤天ヲ捲キ轟然百雷ノ震スル如ク寄セ來リ
 テ遂ニ岸頭ニ碎ケテ止ムニアラスヤ世ノ現狀殆ト此ノ如
 ク其例枚舉ニ遑アラス本會ノ事業ハ斯在ル激變ノ生スヘ
 クモアラス平穩ニ其進歩ヲ見ルヲ得ヘシト雖モ其間多少
 ノ困難ニ遭フコトナキヲ必トセス宜ク堅牢ナル埔頭ヲ築キ
 カチ一ニシ心ヲ合シテ時ニ在瀾怒濤ニ遭フコトアラソモ泰
 然トシテ驚カス電信相應ニ漁船相扶ケ熱心ニ内外相連結
 提携マテ其美ヲ致サシモノヲ希望シテ己マサラントス
 今親愛ナル諸君カ此一堂ニ會シテ新日情ヲ叙シ一團ノ和
 氣飄々トシテ起リ感喜ノ色勃々トシテ發シ百口同聲ノ情
 ナ見ル時ニ臨ミ之ヲ慶スルト同時ニ不祥ノ語ヲ吐キ呢々
 スルモノ豈他アラソヤ所謂歡極リテ杞憂ヲ懷クノ餘ヲ敢

大隱衷ヲ陳ヘテ以益本會ノ隆盛ヲランコト祝フ併テ學友
 諸君ノ福祉アラソコト祈ルナリ

明治廿四年七月十九日 穗積 信 順
 (備考) 在校外者ハ渾テ現在ノ業務ヲ記入スベキ等ナレ
 此就中曾テ和歌山縣尋常中學校ニ卒業シタル諸氏
 ノ業務ハ中學校記事ノ部ニ掲グルヲ以テ此ニ贅セス

明治廿四年七月十九日 布施 萬

在校外會員ノ部

我中學ニ入ルモノ前後數千人其同ク校ニアル互ニ兄弟ノ
 親ニアリ而シテ一タビ散ラ去ルヤ其交淺ク疎ク甚キハ相
 親ヲ猶本路人ノゴトシ是豈宜キ所ナランヤ座ニアルノ諸
 子深ク之ヲ愛ヒ相謀テ同窓ノ會ヲ起シ本日ヲ以テ第一回
 總會ヲ開ク夫レ此會ノ趣意時ヲ期シテ相會シ益ヲ取リ
 親ミテ誼ヲ永ク同窓ノ情誼ヲ失ハザルコトアリ美舉ト謂ハ
 ザルヘケンヤ乃チ知ル今ヨリ後本校ニ入ルモノ一人ノ之
 ヲ贊セザルナク會員年ヲ逐フテ加リ終ニ一大會ヲナスチ
 豈盛ナラズヤ然リト雖始アリテ終ナキハ人事ノ通患而シ
 テ近日起ル所ノ事業ヲ殊ニ然リトス諸子ニシテ若シ今日
 ノ熱心ヲ繼ガゼランカ則此會亦久カラズシテ微滅シ同窓
 ノ間再ヒ路入ノ觀アルニ至ラントス諸子其レ勉メザルベ
 クヤ故ニ區々ノ心今日ヲ賀スルニ因リ併テ後日ヲ規ス

- 在校會員ノ部
- 大橋 季一 山名光太郎 吉成 貞輔 野口徳太郎
 - 吉村友之進 小山 光彦 中西準太郎 橋本 常彦
 - 勝田良太郎 利光 平夫 中谷民太郎 兒玉芥太郎
 - 藤田藤二郎 石本 徳松 菅谷 榮橘 谷 寛範
 - 田村富太郎 戸村 定楠 廣田 一乘 蘭部 倭
 - 平田 敏雄 谷井 信也 吉田 甚勲 鹽崎光之助
 - 月山秀太郎 鈴木 春樹 生田克太郎 堀 峰橘
 - 藤本 芳麿 山東 兵藏 寺島 宣躬 土岐 嘉平
 - 猪谷善之助 萩野 梅若 木梨延太郎 大中 信
 - 岩橋永太郎 三上 増吉 服部 本一 矢野 通
 - 後藤 勇 岩本竹之助 杉村廣太郎 平野貞一郎

山崎孝三郎 宮崎正太郎 田中忠次郎 石戶友吉
岡本榮次郎 功乃通之助 川口德松 岡見昇三
丸山庸二 中 龍兒 增永増次郎 加藤陽三
楠本千代吉 安野恭太郎 久保茂一郎 可兒一雄
平山雅次郎 澤村俊一郎 石河保太郎 中村事
山田榮三郎 今井英一郎 稻垣靖一 藤本五郎
淺野八郎 野口熊一 益田多喜藏 前田幸之助
小山秀 楠見廣三郎 小山準太郎 喜田龜太郎
鹽路岩楠 瀧本美夫 湯川兼吉 貴志尙
桑山新太郎 藤野寅太郎 原田健一郎 豐田鉄三郎
山田増之助 栗生俊健 奥慶次 島田直二郎
岡田澄太郎 淺香周藏 一色幾太郎 岩壺春吉
内藤壽彦 中筋麒一 木村晴夫 橋井三十郎
多屋謙吉 谷山謙雄 中筋庸雄 大谷熊之進
鈴木誠 東喜之助 郭憲 根岸信
飯村秀三 隅田豐吉 瀬戸啓太郎 宮井一枝
藤和田精三 數中豐次郎 吉田秀 貴志立

山修一郎 小山谷藏 大中啓之助 坂上昇二
小野由太郎 藤岡肅次郎 高田龍之助 山東隆之進
小早川九輔 山本龍 宇治田増次郎 大前秀松
延與源之丞 鈴木直太郎 玉置徳太郎 野尻幾松
中井駒次郎 岩谷茂 清水季彦 西川勝藏
井關正行 藤野和一郎 田中恒楠 高垣安之助
小山小文治 小野田令三 中島正方 野田秀
野田一 波切靜 阪田敬太郎 根來純一
浦神裕 湯子半四郎 山崎富之丞 石川弘
太田幸造 内田琢磨 澤昌一 鳴神幹太郎
野村源七 皆部梅太郎 玉置傳三郎 橋井清五郎
保田林太郎 打田安太郎 二宮誠之 蘭田四郎
森中吉松 上田治三郎 水島直彦 里村和助
新宮清太郎 嵩鶴彦 中村精一 櫻葉岩千代
青木昇 佐々木種太郎 高垣龜吉 吉村幹三郎
中西昌夫 津山英吉 村辻盛之助 板原關敬
稻内豐 北川福牛 上田光好 野田孝一

清水善榮 榎本經隆 津守吉太郎 中桐虎炳
木川嘉彌 岩橋徳之助 貴志芳雄 原田宗一郎
出東顯一郎 原見松次郎 上田芳彦 蘭部邦楠
山本寛一 矢船一頁 江馬勝吉 岩橋少吉
山田清二郎 堀内謙一 岩橋直男 中地新太郎
松波虎之助 弘瀬原太 裏地健次郎 小賀環
須藤順二郎 鳥居真好 小上篤郎 田中關四郎
小倉孔之助 小島英二郎 島村善七 多賀良雄
起尙友 小笠原榮夫 鈴村貞二郎 由良恒彦
能川堅二郎 増井豐二郎 内村昇太郎 勝野誠吉
辻壽雄 今井恒吉 小出俊雄 南川信二郎
蘭部可昭 鳥居藤三郎 村井傳 小川金之助
金澤彌一郎 田中慶吉 松本榮二郎 川合秀管
野口順三郎 松本進橋 中村信吉 高岡謙吉
内藤安彦 三浦英太郎 古田茂穂 早川昇
瀧川新太郎 並木道 竹中重三郎 打田安輔
小敷増太郎 栗本房廣 貴志秀太郎 保田修一

松下龍吉 駒井元哉 戸田實 高田末男
海瀬定一 衣川芳三郎 戸田清 三宅延之助
中村正夫 西村謙一郎 石井俊哉 小嶋千代楠
高柳捨五郎 贊川慶市 岡寛平 岡重義
柳本松太郎 南丘信吉 武田信雄 前嶋實之進
湯川廣一 西村政一郎 澤崎茂吉 山本正夫
吉田邦之進 山中善一郎 橋本政之助 近藤謙太郎
武田貢 玉置彌造 清水芳太郎 松田碩
小山秀二郎 國中太一 和田哲郎 小玉清三郎
十川治郎 前澤尙正 東山春吉 鳥居儀七郎
川邊泰治 青井三藏 花岡宗太郎 中村源二郎
近藤貫一 酒井光之助
賛助員ノ部
松山亮 加藤常七郎 松原榮 鶴見次昌
高橋怒 大龍七郎 布施萬 小久保直五郎
玉井貞也 鈴木篤三 穂積信順 馬淵近之丞
富補太郎 佐藤傳七 杉山守吉 秋月利一

◎日本ニ於ケル地理ト人類ノ關係一班

松原榮君演說筆記

茲明治廿四年七月十九日我中學校同窓會第一回總集會

中學校講堂ニ開ク會員諸賢ノ臨席甚々多シ是誠ニ欣賀

スヘキ事ナリ榮モ亦此盛會ノ班末ヲ汚シ且演說スルノ

榮ヲ得何ノ幸カ之ニ過キン因テ聊カ日本ニ於ケル地理ト

人類ノ關係一斑ナル題ニ就キ清聴ヲ煩ハサントス

夫レ地理學トハ地球ノ事ヲ論スル科學ニシテ其區域甚々廣

シ天文ニ關スルコトアリ地形ニ關スルコトアリ地質ニ關スル

コトアリ大氣ニ關スルコトアリ水ニ關スルコトアリ生物ニ關スル

コトアリ而シテ皆人類ト關係スルコト頗ル密着ナリ蓋シ人

類ノ万物ノ靈ニシテ其知識ノ禽獸蟲魚ニ勝レル素ヨリ論ヲ

後ニ殊ニ近世ニ至テハ宇宙万象ノ理ヲ極メ之ヲ事物ニ

應用シ厚生ノ道ヲ開キ所謂造化ノ工ヲ奪フト稱スヘキモ

少ナカラス例ヘバ汽船、汽車、電信器、傳話器等ノ如キ其

他諸事ニモモトモニ其他古人ノ夢ニダモ見聞セサル機器

ニアルヲ異ナリトス之ヲ要スルニ我國ノ地勢ハ二大嶺ニ

ヨリ分カレテ三トナルモノナリ

因ニ曰地質學者富士帶ヲ以テ日本ヲ兩分シ該帶以北ヲ以

テ北日本ト稱シ以南ヲ以テ南日本ト稱シ山系、氣候、植

物、歴史等皆異ナリトナス富士帶トハ信越境界ノ邊ヨ

リ起リ八ヶ岳富士山箱根山伊豆國ヲ經過シ東南々ノ方向

ニ走リ伊豆七嶋八丈島小笠原嶋トナリ尙延イテ火山嶋マ

リアナ嶋ニ至ル火山脈ナリ

又分水線ヲ以テ日本四大島ヲ分ツテ五區域トナスヲ得ヘ

シ蓋シ分水線トハ甲ノ海ト乙ノ海トハ雨水ヲ流入セシム

ル境界ニシテ國中ノ界最高ナル山嶺ト符合スルモノナリ而

シテ日本帝國ノ四邊及ヒ中央ニ位スル海ハ前哥斯科海、

太平洋、東海、日本海及ヒ瀬戸内海ノ五大海ナルヲ以テ此

等ノ各海ヘ水ヲ流入セシムル五大區ノ存スルナリ今各嶋

ニ就キ分水線ノ經過スルトコロヲ示サザニ北海道ニテハ

二分水線アリ甲ハ知床崎ニ起リ根室北見ノ間ヲ過キ尙西

走シテ北見ト釧路ト勝ノ間ヲ過キベ、ツ山ニ至リ南ヲ折

ルニテ東ニ進坂ヲ關以テ西ニ關西ト云ヒ以東ニ關東ト云ヒ箱根以

東ニ進坂ト稱セリ今箱根以東ニ關東ト稱スルハ誤ナリ今

前ニ關東ト稱スルトコロノ二橫斷地ヲ之ニ參照スルニ此分域ハ

略シ横斷嶺ヲ境界トナセルカ如シ但逢坂ノ關ハ近江山城

間ニアルヲ以テ昔ノ所謂關東中近江國ハ此橫斷嶺ノ西

石狩十勝日高ノ境ニ至リ西ニ折リ石狩ト日高膽振ノ間
ヲ走リ石狩膽振ノ境界ナルシテ山ヨリ膽振國內ニ入
ル樽前後別等ノ諸山ヲ經膽振後志ノ間ヲ走リ中途ニ於テ
南折シ渡島國ヲ貫キ白神崎ニ至リ海ニ入り太平洋ニ水ヲ
注入スル地方ト日本海及ヒ疇哥斯科海ヘ水ヲ入ル、モノ
トノ境ヲナス一ハ宗谷岬ニ起リ北見天鹽ノ間ヲ南走シ石
狩嶽ニ至リ甲ノ分水線ニ會シ疇哥斯科海ノ諸流域ト日本
海ノ諸流域トヲ分ツ本洲ニモ亦分水線ニ條アリ一ハ陸奥
ノ龍飛崎ニ起リ陸奥ヲ兩分シ赤倉岳ヨリ略陸中陸前ト羽
後羽前トノ間ヲ南走シ岩代ノ東部ヲ貫キ那須山ノ邊ニ於
テ西折シ岩代越後ト下野上野トノ間ヲ又南折シテ信濃ト
上野武藏甲斐トノ間ヲ走リ終ニ信濃飛驒ノ中央ヲ貫キ北
陸東山兩道ノ界ヲ過キ又零山陰山陽兩道ノ界ニ沿ヒ西走
ル邊ニ赤間關ニ至リ日本海諸流ト太平洋諸流域瀨戶内海
諸流域トヲ分ツ又一ハ近江美濃越前ノ界ヨリ分岐シテ近
江伊賀大和ト美濃伊勢トノ間ヲ南走シ大臺ヶ原山ヨリ西
折シ邊ニ比井岬ニ至リ海ニ入り太平洋諸流域ト瀨戶内海

諸流トヲ分ツ四國ニハ一條ノ分水線アリ浦生田崎ニ起リ
西走シ少シク阿波土佐ノ界ト合シ伊豫南部ノ由良崎ニ至
リ海ニ入ルモノナリ九州ニテハ四海ヘ水ヲ注流セシム故
ニ三分水線アリ則一分水線ノ豐後ノ東南ナル鶴望崎ヨリ
起リ概テ豐後肥後薩摩ト日向大隅トノ間ヲ走リ大隅ノ西
角ヨリ薩摩ノ南部ヲ貫キ野間崎ニ至リ太平洋ノ諸流域ヲ
圍ムモノアリ又一ハ赤間關ノ對岸ニ起リ南走シテ英彦山
ニ至リ尙南進シテ豐前豐後ノ境ト合シ祖母岳ニ至リ東折
シ前ノ一線ニ會シ瀨戶内海ヘ灌流スル諸流域ヲ圍ム又一
ハ平戶瀨戶ニ起リ東走シ國見岳天山等ヲ經、筑前肥前ノ
界ト合シ筑前ノ東南ヲ貫キ終ニ英彦山ノ邊ニ於テ前ノ分
水線ニ會シ日本海ノ諸流域ヲ境スルモノナリ斯ノ如ク北
海道ハ地勢三分シ本州モ亦三分シ四國ハ二分シ九州ハ四
分スルモノナリ
日本全國ハ又更ニ幾多ノ流域ニ分ツテ得ヘシ流域トハ一
川ニ水ヲ注流セシムル總面積ヲ云フ又流域ト流域トノ界
ヲ分水界ト云フ分水界ハ其流域中ノ諸溪流ノ發スル源ヲナ

スヲ以テ概シテ流域中ノ最高ナル部分ヲ占ム故ニ一流域
ノ地勢ハ其中間低ク三方ハ高クシテ概テ谷狀ヲナシ自ラ
天然ノ一區域ヲナス多シトス而シテ川ハ各其流域ヲ備
スルヲ以テ流域ノ數ハ川ノ數ニ等シキナリ然ラハ則日本
ニ於ケル流域ノ數多キ容易ニ知り得ベシトス
夫レ人類カ地理ノ影響ヲ受クルヤ既ニ述フルカ如シ而シ
テ地形モ亦大ニ人類ニ影響ス諸ノ地形中如何ナルトコロ
カ最モ人類ノ住居ニ適スルヤヲ考フルニ平地ヲ以テ之カ
最トナス其故ハ第一平地ハ山阪ヨリ耕作ニ便ニ交通運輸
モ亦便ナリ從ツテ商業ニモ亦便ニ工業ニモ亦便ナリトス
蓋シ人ハ衣食住ニヨリ生活シ衣食住ヲ得ルノ道ハ此等ノ
諸業ニ加フモノナキニ由ル於是人多ク平地ニ群居シ從ツ
ル凡百ノ人事ノ起ルハ平地ニアリ
今茲ニ一平地アリ四方山海等ヲ以テ限ラル、其ハ自ラ一
區域ヲナス而シテ此區域内ニ住居スル人民ハ其内ニ耕作
シ其内ニ賣買シ其内ニ於テ諸品ヲ製造ス又凡百ノ人事モ
亦從ツテ此區内ニ勃起シ自ラ一社會ヲナスベシ是其四方

アル山海等ノ爲メ他ノ地方ト交通スルヲ其域内ニ於テ
スルヨリ遙カニ難ケレハナリ設ヘハ此地ニシテ他地方ト交
通スル稍容易ナリトスルモ尙此區域内ニ於ケル交通ハ之
ヲ他地方トノ交通ニ比スレハ多カルヘキハ自然ノ數ナリ
トス故ニ斯ノ如キ區域内ニ於テハ其商業域内ニ局スルモ
ノ多ク風俗言語ニ於テ自ラ一種ノ特徴ヲ發達スヘキハ最
モ見易キノ理ナリ古昔希臘ニ於テ此ノ如キ幾多ノ區域ニ
於テ各特殊ノ政體ヲ發達セシメ、史乘ノ記スルトコロナリ
是政治ニ關スルヲナレバ其他凡百ノ人事モ亦斯ノ如クナ
リシナラン
夫レ流域ノ境界ハ多ク高處ナリ故ニ自ラ一區域ヲナス
多キハ既ニ論スルカ如シ故ニ一流域ノ内ニ於テハ前述ス
ル如ク商業ハ其内ニ局スルモノ最モ多ク一種特有ノ風俗
言語ヲ發達スベキノ理ナリ然レバ一流域ニシテ二以上ノ區
域ヲナスヲアリ或ハ却ツテ他流域ト共ニ一區域ヲナスヲ
アリ茲ニ述フルトコロハ只其概要ヲ言フノミ故ニ流域ハ
人事ノ異同ヲ類別スルニ於テ最モ適當ナル區域ト云フヘ

我國幾多ノ流域ハ斯ノ如キ區域ヲナシ各自其内ニ商業ヲ行ヒ各特有ノ風俗言語ヲ備フト言フモ大差ナカル

次ニ先ニ舉グル四大島ノ分水線ヲ以テ限ラレ各海ニ注流スル諸流域ハ相合シテ此ノ如キ大區域ヲナシ各自商業發達ノ風俗言語ニ於テ類似スベシは一ハ其距離近ク一ハ海

ニヨリ相通スルヲ得ベク海ハ頗ル交通ヲ便ニスルノ徳アリ故ナリ又中國四國九州等ハ自ラ此ノ如ク區域ヲナシ

瀬戸内海ニ注流スル三島ノ諸流域等モ亦自ラ一區域ヲナシ則山陽道ノ如キハ或ハ山陰道ト合シテ一區域ヲナ

スルハ畿内南海西海ノ一部ト合シテ一區域ヲナスベシ即チ事ニヨリ山陰ト普通ノコナリ又畿内南海及ヒ九州ノ一

部ト普通ノ事アレバ是其區域相重複スルモノナリ其故ハ一半島内若シクハ一島内ハ陸地連續シ其距離近ク又中

央ニ位スル内海狭ク從テ運輸交通對岸ト容易ナルノ利アリ

故進メテ先ニ述アルトコロノ日本ノ三大區域ヲ檢スルモ

總ニ確ミ一言スベキコトアリ蓋シ斯ノ如キ問題ハ頗ル錯雜ナルモノニ實際ヲ精査スルコト甚タ難ク又未實際スルノ如

キ調査アリシチ聞カス然ルニ今茲ニ之ヲ演説スルハ地理學上ノ理論ヨリスルモノナリ然ラハ則徒ラ空論ヲ弄シ

一場ノ快ヲ取ルニ似タリト雖モ決シテ然ラズ此ノ如キ理論ハ實際ヲ調査スルニ當リ之ヲ標準トスルハ大ニ補助

ナリ又歴史上或ハ行政區劃等ノ如キ種々ナル人爲原因ノ爲ニ之ト異ナルトゴロアルベシト雖モ其概要ニ至ツテハ之ト大差ナキヲ信スレバナリ因テ此會ニ於テ謹ンテ此

ハ其商業最モ多ク其域内ニ行ハレ風俗言語等ニ於テモ其各域ニ普通ニシテ他域ト異ナルモノヲ見ルベシ是人ノ偏

知ルトコロナリ則關西ハ自ラ關西ノ風俗言語アリ古ノ所謂關東ニハ關東ノ風俗言語アリ古ノ阪東ニハ自ラ阪東

ノ風俗言語アリ而マテ商業モ亦各區内ニ於テ最モ多ク行ハル、ガ如シ以上述フルトコロハ則日本ニ於テ商業風俗

言語ノ地形ノ爲ニ影響セラル、一斑ナリ

斯ノ如ク大小ノ區域異ナレハ各區商業其區域内ニ於テ最モ多ク行ハレ又特有ノ風俗言語ヲ發達セシムト雖モ他區

域トハ絶ヘテ交通ナシト云フ謂ニ非ラス又風俗言語等ニ於テ少シモ他區域ト類似ノ点ナシト云フニ非ラス只其區

域内ニ於ケル類似ハ他區域トノ類似ヨリ強シト言フノミ

而シテ商業ノ一區内及ヒ其區ト他區トノ多少ノ差及ヒ其區内風俗言語ノ類似ト他區トノ類似トノ強弱ノ差ハ他區

ト交通盛ナルニ隨ヒ彌減スルモノニ近時ノ如ク瀛車漸船ノ便開シラレバ之ヲ減スルコト益著シキモノナリ然レ

ハ多少ノ差ハ必ス存スト云フモ決シテ經言ニ非ラサルベ

内ニ於テ校舍ノ建築ニ着手シ此ニ至リ其功ヲ竣ヘタリ依而師範學校在來ノ校舍ト合併シテ更ニ之ヲ兩校ニ分割使

用セリ然レモ書庫職員室講堂等兩校ノ共用ニ屬スル部分亦少カラス其職員ノ如キモ大抵兩校ノ職務ニ兼任セリ當時生徒ノ數百三十三名學科ハ正則(普通科)ニシテ八級四

本校記事

沿革ノ概要

和歌山縣尋常中學校ハ明治十二年三月一日ノ開設ニ係リ當時之ヲ和歌山中學校ト稱セリ是ヨリ先キ明治十一年十

師校ス依テ九月ヨリ新式体操ヲ實施ス

十六年大ニ學校ノ規模ヲ擴張シ學士ヲ聘シ教員ヲ増加シ器械標本等ヲ整備セリ

十八年九月一日ヨリ始メテ兵式体操ヲ實施ス此年理化學教室一棟ヲ新築セリ

十九年九月尋常中學校學科程度(十九年六月文部省令第十四号)ニ基キ仮リニ學科ヲ改正ス

二十年一月校則學科ヲ改正シ師範學校ト分離シ元師範學校附屬小學校ノ校舍ヲ仮用ス同年三月始メテ專任校長ヲ置キ次テ理化學教室ヲ建築シ學生園ヲ編制シ生徒管理規則ヲ試驗細則學資金取扱順序等ヲ制定ス五月始メテ外國教師ヲ聘用ス爾來現今ニ止ルマテ大体ノ規模ニ於テハ變更ナシ校舍ハ前記ノ如ク一時師範學校附屬小學校舎ヲ仮用セシモ狹隘ニシテ不便ヲ極メタルヨリ縣知事ニ於テ漸築ノ必要ヲ認メ明治二十年十一月之ヲ縣會ニ詢リ次テ徳川侯爵ニ協議ノ上兼テ同侯ヨリ本校資金トシテ寄附セラレシニ金三萬圓ノ内元金一萬圓ト利子殘額二千五百圓ト

合計一萬二千五百圓ヲ以テ新校舍建築ノ案ヲ立テ二十一年三月更ニ縣會ニ詢問シテ其議ヲ決シ同年七月地ヲ城内西ノ丸ニトシテ建築ニ着手シ二十二年三月竣成ス仰テ同月十六日ヲ以テ落成式ヲ舉ケ十七日ヨリ此ニ移轉セリ

○卒業生氏名

明治十五年中學科卒業

靜岡縣尋常師範學校教諭高等師範學校卒業 佐野喜代吉

宮崎縣尋常中學校校長高等師範學校卒業 角谷源之助

大阪府屬(舊姓阪田) 中島幸三郎

法科大學卒業法學士 中松 盛雄

實業 木津 文吾

本縣雇員(舊姓竹田) 伊藤 信平

小學校訓導 戶口榮之丞

死去 石川 楠一

農林學校林科卒業 山根 龜吉

日本郵船會社員(旧姓杉原) 中岡 泰雄

明治十六年中學科卒業 ○印ハ明治十八年ニ至リ更ニ高等中學科ヲ卒業ス

高野山中學林教員(舊姓中村) 大崎武之丞

高等師範學校在學 ○ 吉村源之助

小學校訓導 田中 龍眉

實業(舊姓川崎) 嶋 虎之助

米國留學 南方 熊楠

私學教員(舊姓喜多嶋) 木村丑三郎

實業 喜多幅武三郎

砲兵少尉 長尾 駿郎

小學校訓導 石原 綱藏

在農科大學甲科 ○ 小松 省吾

死亡 岡 寬剛

明治十七年初等中學科卒業 ○印ハ明治十八年又ハ十九年ニ至リ更ニ高等中學科ヲ卒業ス

法科大學在學 神谷豐太郎

死亡 石井 兼楠

不詳 津守精太郎

裁判所書記見習 ○ 池田元太郎

實業(在北海道) 山田勢太郎

小學校訓導 丸野 熊吉

小學校訓導 落合金之助

實業(舊名龜松) 三毛 純一

札幌農學校在學 十川嘉太郎

海軍少尉(在橫須賀) 富士本梅二郎

私學教員 ○ 西村米三郎

步兵少尉(在第八聯隊) ○ 江上喜三郎

慶應義塾(舊姓小泉) 湯淺 辰彦

小學校訓導 ○ 志村龜之丞

家居 ○ 阪井卯三郎

明治十八年初等中學科卒業 ○印ハ明治十九年ニ至リ更ニ高等中學科卒業

實業 今井駒二郎

小學校訓導(舊名勝二郎) 柳本重二郎

本縣雇員 川島 辰楠

死亡 岩田竹二郎

不詳 ○ 近藤兵之助

死亡 伊藤驥四郎

小學校訓導

明神芳太郎

一年志願兵服役(在近衛)

瀧野篤之助

京都同志社英學校在學

阪田貞之助

家事 (舊姓赤根)

長岡源二郎

明治十九年初等中學校卒業

小學校訓導

(舊姓國中)

木村 保

小學校訓導

植村熊二郎

本縣雇員

嶋 駒之丞

小學校訓導

岡本藤次郎

第一高等中學校在學

小池 樅楠

小學校訓導

宮崎小藤太

明治二十年尋常中學校卒業

第一高等中學校在學

鳥山嵯峨吉

第三高等中學校在學

柳 亮三郎

不詳

勝本市太郎

不詳

杉山 金吾

第一高等中學校在學

山本安之助

不詳

小阪重太郎

裁判所書記見習

石河 貞造

明治二十一年尋常中學校卒業

本縣雇員

大橋 季一

德脩學校教員

山名光太郎

在東京

吉成 貞輔

死亡

倉地 璞也

二十三年徵兵現役中

野口德太郎

英吉利法律學校在學

吉村友之進

本縣尋常師範學校在學

小山 光彦

理科大學簡易講習科卒業

中西澤太郎

明治二十二年尋常中學校卒業

本縣尋常師範學校在學

橋本 常彦

小學校訓導

勝田貞太郎

第三高等中學校在學

利光 平夫

第三高等中學校在學

中谷民太郎

家居

(舊姓岩崎)

兒玉芥太郎

山陽鐵道會社

藤田藤二郎

在東京

石本 德松

第三高等中學校醫學部在學

菅谷 榮橘

陸軍備備步兵少尉

谷 寬範

本縣尋常師範學校在學

田村富太郎

明治二十三年尋常中學校卒業

第三高等中學校在學

戶村 定楠

第三高等中學校在學

廣田 一乘

第三高等中學校在學

蘭部 倭

第三高等中學校在學

平田 敏雄

第三高等中學校在學

谷井 信也

小學校訓導

吉田 甚藏

小學校訓導

鹽崎光之助

東京遊學

月山秀太郎

東京遊學

鈴木 春樹

家居

生田克太郎

在愛媛縣松山

堀 峰橘

家居

藤本 芳磨

工手學校卒業

山東 兵藏

第三高等中學校在學

寺島 宣躬

明治二十四年尋常中學校卒業

未定

土岐 嘉平

未定

猪谷善之助

第三高等中學校入學出願中

荻野 梅若

理學大學簡易講習科入學出願中

木梨延太郎

第三高等中學校入學出願中

大中 信

未定

岩橋永太郎

未定

三上 增吉

郵便電信學校入學出願中

服部 本一

第三高等中學校入學出願中

矢野 通

○現況一斑

和歌山縣尋常中學校舎ハ現今校舎建築八百八十三坪余ニシテ教室十四講堂寄宿舎倉庫等ノ設アリ職員ハ校長一人教員十六人書記二人生徒二百五十人内寄宿七十人二十

運動會資金結算報告

二十三年五月ヨリ二十四年六月ニ至ル運動會資金ノ

結算左ノ如シ

收入ノ部

拾圓拾四錢

百拾貳圓八拾六錢

拾三圓

山ノ部

四圓四錢貳厘

貳拾六圓拾五錢

拾三圓貳錢四厘

八圓貳拾錢

拾九圓六拾一錢三厘

拾三圓三錢九厘

拾九圓七拾七錢一厘 銀行預金

前期越高

本期收入

有田郡へ修學旅費補助

運動會費二回分

天長節費用

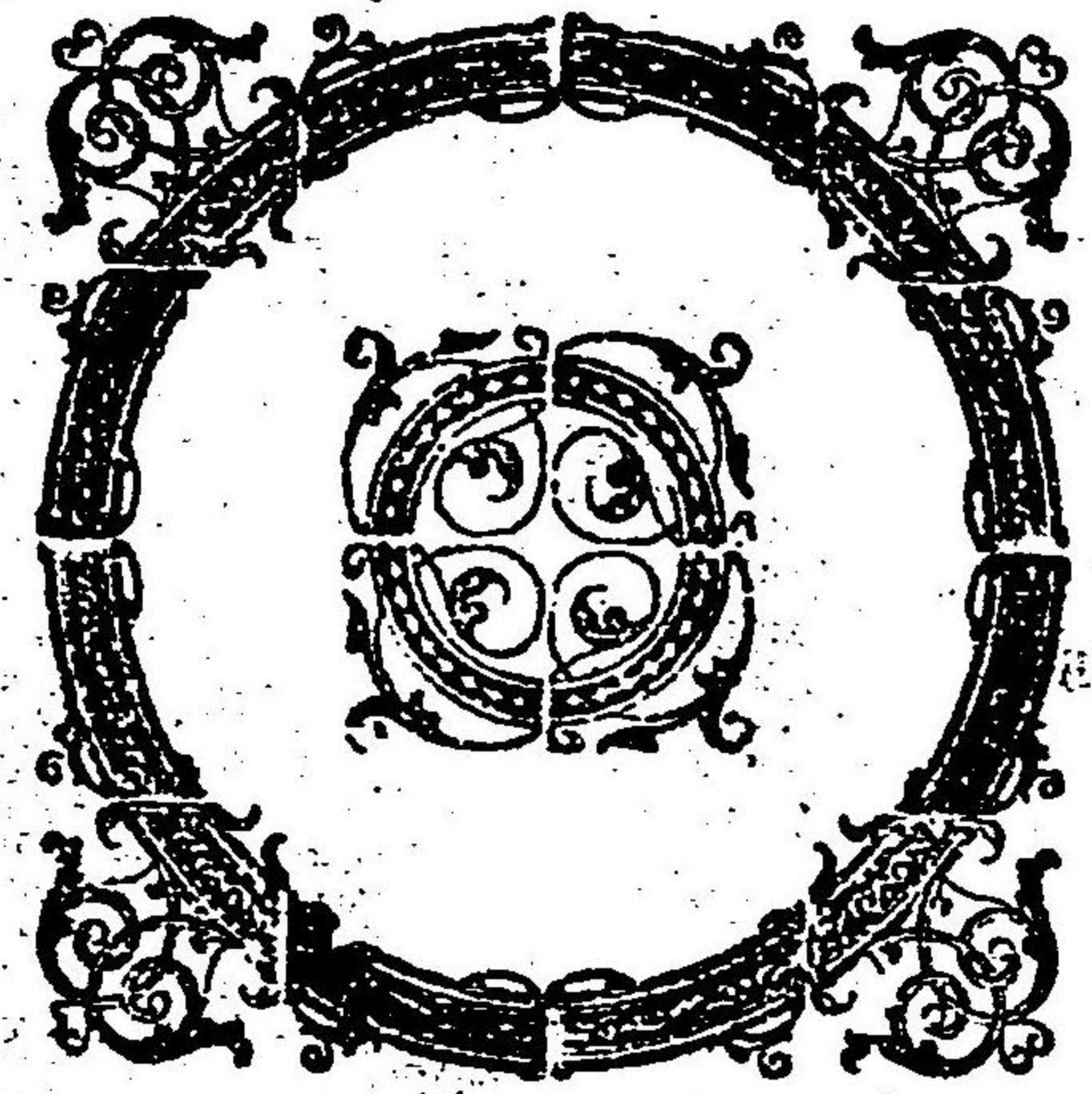
雜費

高野山修學旅行費

五之浦

明治二十四年七月

和歌山縣尋常中學校



049034-000-7

特19-987

和歌山県尋常中学校同窓会報告 第1号

和歌山県尋常中学校同窓会

M24

BEJ-0901

